

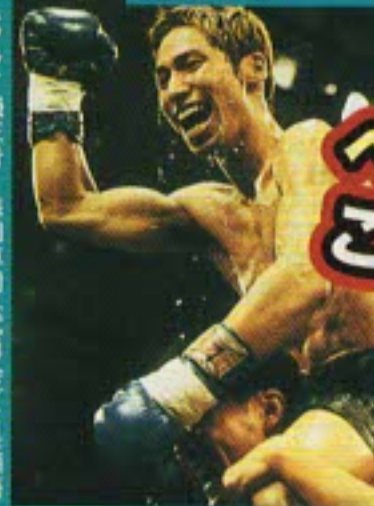
MAキックの王者が4人も出場するも、客席はガラガラ。いい試合が続出しただけに、会場の演出やマスコミを使っての仕掛け等、選手に対して見る側が感情移入できる“何か”が欲しかった

王者4人が出場した“チャンピオン・カーニバル”
しかし、客席は……

第15試合に行われたMAスーパーフェザー級王者の天野哲成(マイウェイジム)VS砂田政彦(士道館シカノジム)戦は、5Rに2度ダウンを奪った天野が3-0の判定勝利。天野は「次の防衛戦までは、絶対に負けたくない」とコメントを残した。



MAフライ級王者・森岡卓司(武勇会)と長瀬慎(晋志野ジム)の一戦では、森岡が長瀬の右ストレートでKO負けするという番狂わせが起こった。この日、それまでの試合のほとんどが判定決着だっただけに、インパクトは大きかった。



ベストバウト続出!
この熱を、もっと多くのファンに伝えたい

タイ国王誕生日祝賀大会に、伊藤隆の出場が決定!



昨年はNJKFの鈴木秀明も出場した、毎年恒例のタイ国王誕生日祝賀大会(12月5日)に、今年もMAキックのエース・伊藤隆が出場することが決定した。この大会は、王宮前広場に10万人とも言われる観衆を集める、世界最大規模の格闘技イベント。伊藤は、かつてルンビニー王者になったこともあるムラッド・サリヤ多くの強豪ムエタイ戦士を倒しているだけに、実績は十分。“世界選抜チーム”の一員として、タイのトップ選手と闘うことになる。なお、この大会は、日本からの観戦ツアーも行われる。お問い合わせは、(株)キャプテンツアーズ☎03-3456-5775まで

▶セミファイナル。MAライト級王者の井上哲(山本ジム)が、元ラジャダムナン・バンナム級王者のワンヒン・ポーチャイワットを迎え撃った一戦は、2R36秒、井上が強烈な右フック一発でKO勝ちを収めた。



▲これが、フィニッシュとなった井上の右フック。井上は試合後「あれはまぐれ。もう2度とないです(笑)」と語ったが、見事なKO劇だった

て、つつがなく、仕事をこなしただけではない。それぞれ見事なドラマを演じたのだ。

まずは森岡卓司だ。遠く愛媛県からやってきたフライ級王者は、若手の長瀬慎悟の右ストレートをアゴに打ち抜かれて派手にKOされた。森岡にとっては悔しい結末だが、この番狂わせは観るものの心を十分に熱くした。

続く現役王者と元王者の対決もスリリングだった。天野哲成と砂田政彦は、ともに意地をかけて闘った。打たれれば打ち返す式の互角の攻防は最終ラウンド、天野が右パンチを決めて決着をつけた。2度のダウンを奪い、判定勝ちを収める。

井上哲も右フック一発で、元ラジャダムナン王者を沈める。

メインは内田ノボルが、製団道のアフメドフ・ザウスに判定負けしたが、決して恥じるような試合ではない。ヘビー級らしい豪快な殴り合いは迫力満点だった。初回到右パンチでダメージを負った内田は、左目を腫らし、額から出血しながらローキックで追い上げたが、もう一歩届かなかった。

いずれも掛け値なしの好試合である。だが、やはり会場は盛り上がりがない。盛り上がる対象の絶対数が足りないのだから仕方ない。

観客動員の手法、試合の組み方を含め、この日の興行は観客には優しくない。観客に優しくなければ、選手たちにも優しくない。

この興行は、ひとたびK-1が中量級に進出すると、話題を根こそぎさらわれてしまうキック界の現状を象徴するものだったのではないか。返す返すも残念だ。(宮崎)

SRS 2000 10/13 (2)